

**全国医学部長病院長会議
地域医療に関する専門委員会報告**

委員長

鈴木 一幸

平成23年1月20日、東京

初期研修制度必修化制度がもたらしたものの



県都・大学所在都市部と地域都市との地域格差の顕在化

大学病院における帰学率の低下

地域病院への医師派遣体制の破綻
地域病院からの医師引き上げ
常勤医師の離職

研究力の弱体化
基礎医学講座への進学率の減少
診療科選択の歪

地域医療の崩壊

高度先進医療の開発・
推進の低下

初期臨床研修医の帰学状況(最終報告)

- 臨床研修修了者の平成22年4月末における大学への帰学状況を調査し、平成21年、平成20年、平成19年および平成18年と比較検討した。
 - 対照として制度開始2年前の平成14年3月卒業者を用いた。
 - 地域別、国公立別、国公立別の帰学動向について14年卒業者と比較し解析した。
 - 臨床系診療科別進路状況の変化を解析した。
 - 80医科大学・医学部中、防衛医科大学、自治医科大学、産業医科大学を除く77大学からの解析結果である。
-

臨床研修修了者帰学状況

- 平成14年3月(研修制度発足2年前)国家試験合格者に対する自大学+他大学所属者の割合を対照
- 平成16,17,18,19,20年国家試験合格者に対する臨床研修修了者の帰学者(他大学出身者含む)の割合

平成14年:71.4%

平成18年:50.6%

平成19年:52.0%

平成20年:55.9%

平成21年:58.7%

平成22年:51.2%
